

## 4割弱が精密検査の対象 ヘルスケアネットワークSAS検査

重症者は1080人で全体の9・6%



作本副理事長

A判定	異常なし
B判定	身体に異常のないレベルの酸素飽和度の若干変動
C判定	身体に異常のないレベルの酸素飽和度の若干変動。強い眠気の場合は精密検査を
D判定	要精密検査(*D+は重症者)
G判定	その他の呼吸器疾患
R判定	測定不能(測定時間が短い など)

### SAS検査判定基準

万12511人(男性1万9889人、女性2622人、平均年齢45歳)。結果は、4229人(37・6%)が精密検査の対象のD判定。D判定者のうち重症とされるD+判定者は1080人で全体の9・6%。前年度は実施者5834人中1359人(23・3%)がD判定者で、D+判定者は196人(3・4%)で、26年度は率にしていずれも増加している。

判定結果と分析をまとめた。

NPO法人ヘルスケアネットワーク(全ト協SAS対策事業指定機関、大阪市城東区)はこのほど平成26年度睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査について

作本貞子副理事長は

判定	人数	割合
A判定	444人	3.9%
B判定	1932人	17.2%
C判定	4418人	39.3%
D判定	3149人	28.0%
D+判定	1080人	9.6%
R判定	228人	2.0%
合計	11251人	100.0%

SAS検査判定結果

調査対象は平成26年度において同法人が実施するパルスオキシメーター(血液中の酸素濃度を計測する医療機器)によるSAS検査を受診したトラック関係者で、対象人数は1万1251人(男性1万9889人、女性2622人、平均年齢45歳)。結果は、4229人(37・6%)が精密検査の対象のD判定。D判定者のうち重症とされるD+判定者は1080人で全体の9・6%。前年度は実施者5834人中1359人(23・3%)がD判定者で、D+判定者は196人(3・4%)で、26年度は率にしていずれも増加している。

「SASは睡眠中に窒息状態に陥ること、一晩中脳や身体が眠れていない状況がおこり、昼間の活動中にどろろと目覚め、気がつかないうちに一瞬に眠ってしまい、一定時間深い睡眠に陥る症状などが現れ、事故につながる危険性があります。また、高血圧や動脈硬化により運転中の健康起因事故の主な原因となる脳卒中や心筋梗塞などを引き起こす」と話し、運送事業者に対してSAS検査の重要性を訴えている。

問合せは06-6965-3666番。